

2021年度
地球環境『自然学』講座
第2回

テーマ

佐賀県鹿島市干潟と森里川海

講 師

鹿島市役所 建設環境部課長補佐 兼 ラムサール条約室
室長補佐 江島 美央 先生

2021年4月24日
認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

江島 美央（えじま みお）



1. 経歴

- ・ 1974 年長崎県長崎市生まれ。原爆公園、平和公園、浦上天主堂のトライアルのど真ん中で幼少期を過ごす。
1993 年長崎県立長崎西高等学校卒業後、熊本大学文学部史学科に入学。在学中は、肥後藩細川家の古文書解読に明け暮れ、1997 年熊本大学文学部史学科国史学研究室卒業。
- ・ 森高千里の母校・九州女学院（現九州ルーテル学院）で日本史の講師を務めた後、若干のモラトリアムを経て、長崎の中華街付近で 2 年間 OL をし、結婚を機に 2003 年佐賀県鹿島市役所に入庁。現在に至る。46 歳。

2. 現職

- ・ 2021 年鹿島市役所建設環境部環境下水道課課長補佐兼ラムサール条約推進室長補佐

3. 主な仕事の成果（著書、・・・）など

- ・ 2015 年 5 月に鹿島市が有する「肥前鹿島干潟」がラムサール条約湿地に登録されたのを受けて、翌年新設されたラムサール条約推進室に 2016 年から勤務。
- ・ 登録地の地元の方々の「登録されてから自分たちは損ばかりしている」の声をを受けて、環境省が公募していた「地域循環共生圏構築に向けた実証地域における活動団体」に応募し、採択。同事業で 3 ヶ年活動し、環境と経済を回す仕組み作りを構築した。その後、令和元年・2 年の「地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体」にも採択され、活動の幅を広げている

当協議会では「環境と産業の調和」を目指して活動していますが、課題も（が？）多く、しょっちゅうやり玉に挙がっています。しかし、誰もメンタルをやられることもなく、元気に活動中です。今回は、私たちの活動を通じて、どうやって「負の遺産」とまで言われた有明海の干潟を価値あるものへ戻していったかのお話ができると思います。

「環境と産業の調和」から「有明海の再生に向けて」

佐賀県鹿島市役所 江島 美央

1. はじめに

佐賀県鹿島市は、佐賀県の西南部に位置し、東には有明海広がり、西は多良岳山系に囲まれ、森里川海干潟が一带となった自然環境に恵まれた市です。人口約3万人。平成27年に肥前鹿島干潟がラムサール条約登録湿地となったことを受け、この干潟を中心に地域資源を有効に使い、経済の循環を生み出そうと、私たちラムサール条約推進協議会は「地域循環共生圏事業」に取り組んでいます。



2. ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」(登録面積 57ha)

肥前鹿島干潟の周辺には、塩田川、鹿島川などの河川が山間部から豊富な栄養分を干潟や海に運んでくれるため、多様な生き物たちがたくさん生息しています。代表的な生き物は、ムツゴロウ、トビハゼ、ワラスボなどの魚類。アサリなどの貝類。シオマネキ、ヤマトオサガニなどのカニ類が豊富に生息し、それらを餌にするチュウシャクシギやハマシギ等のシギ・チドリ類やカモ類が多く飛来します。絶滅危惧種のツクシガモ、ズグロカモメ、クロツラヘラサギなども飛来し、国内有数の渡り鳥の中継地・越冬地となっています。



クロツラヘラサギとツクシガモ



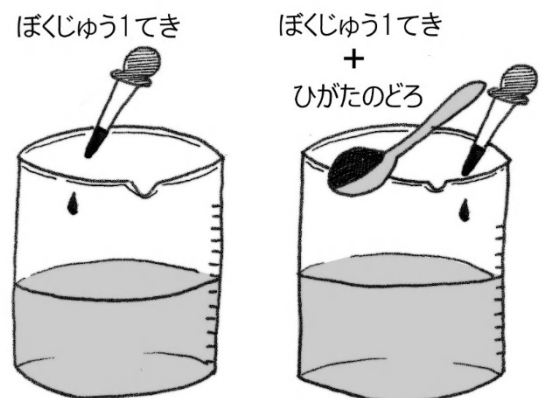
シオマネキとムツゴロウ

3. 干潟の役割



ちょっと休憩・・・

干潟の泥の実験



4. ラムサール条約の三つの柱

① 三つの柱

この三つの柱は、互いに支えあっています。湿地の適切な「保全・再生」には、生態系に配慮した持続可能な「ワイズユース」が不可欠です。「ワイズユース」は、「保全・再生」が行われている健全な湿地の恵みに支えられています。また、「保全・再生」と「ワイズユース」を進めるためには、湿地に関わる関係者の「交流・学習」活動が推進力として大きな役割を果たします。



② 鹿島市の取組

- ・ 保全・再生
佐賀大学による鹿島市沿岸有明海海洋環境調査
カモの食害調査
海の森事業
- ・ ワイズユース
エコツアー
干潟ヨガ
スポGOMI大会
- ・ 交流・学習
環境教育プログラム“鹿島市の子供たちは、必ず干潟に入る！”
観測地の整備



環境教育プログラム “干潟の生き物調査”

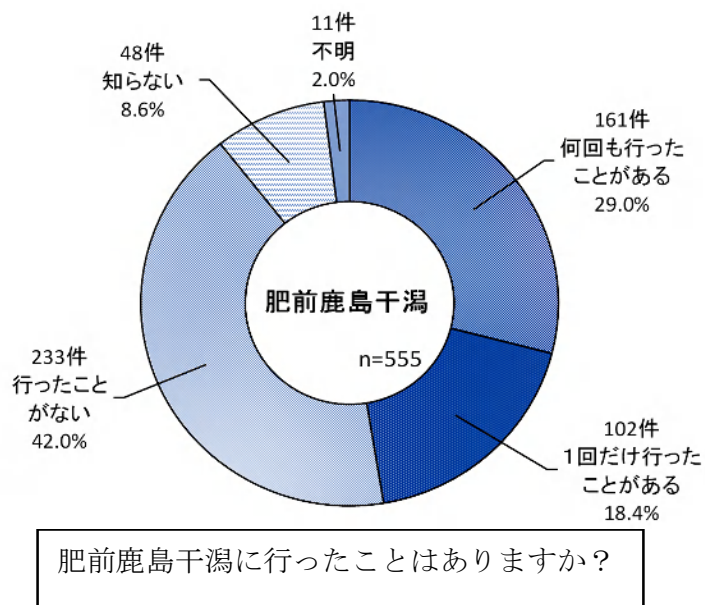


野鳥観察（肥前鹿島干潟）

4. 地域循環共生圏事業

① 地域の現状と課題

- ・人口減少が県平均よりも進んでいる。
- ・市民の干潟への関心が低い
- ・ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」の認知度の低さ
- ・ラムサール登録までのスピード登録の弊害 ⇒ 行政主導
⇒地元の負担増による不平不満大

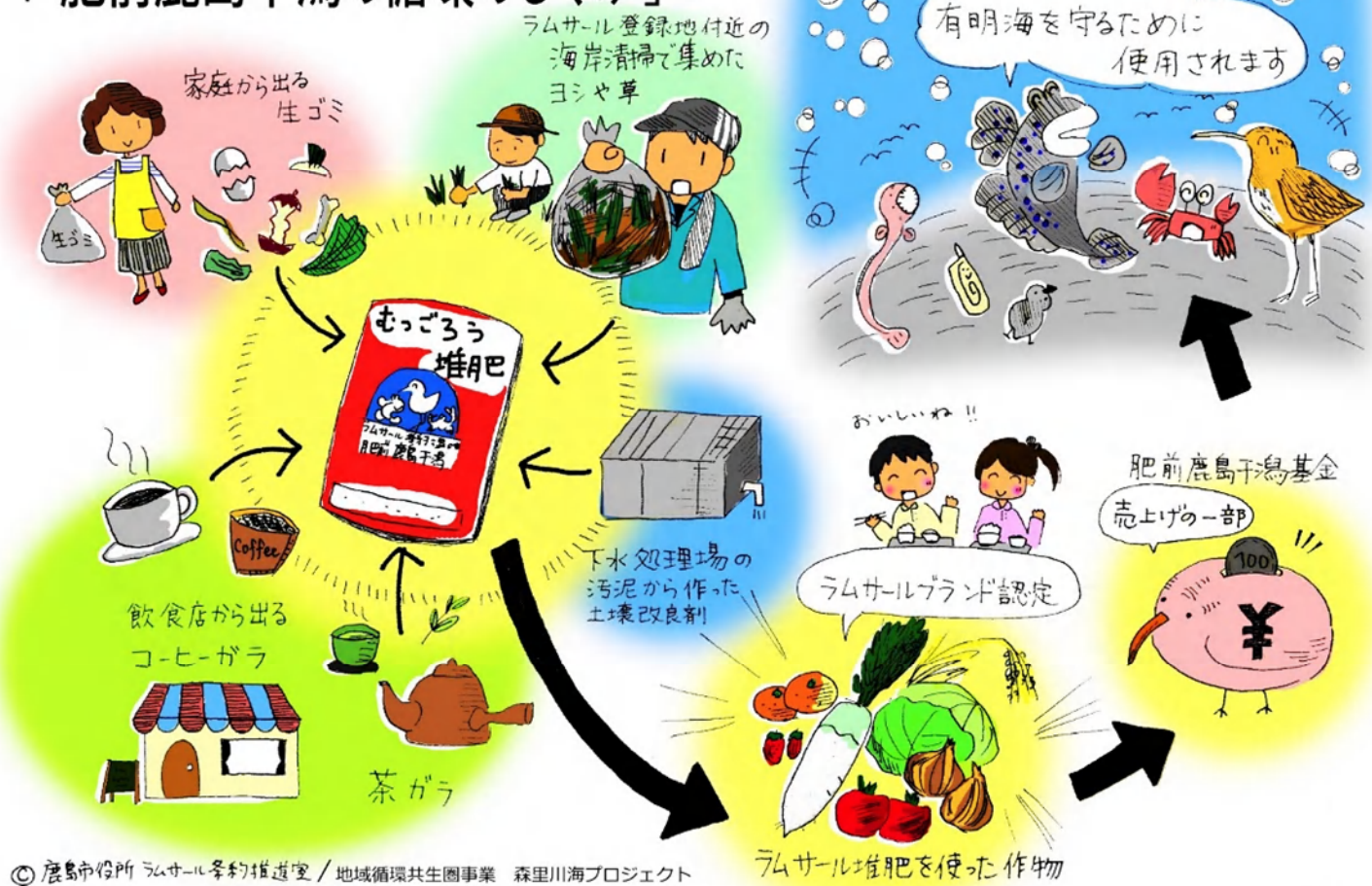


② 有明海の現状

- ・赤潮・青潮、貧酸素水塊の発生により環境が悪化。
- ・二枚貝をはじめとした、干潟に生息する生き物の減少。
- ・生活スタイルや食生活の変化により、干潟への関心が薄れ、干潟に入る人が少なくなった。
- ・台風の進路の変化により、有明海が攪拌されることがなくなった。
⇒干潟の泥質の硬化、悪化
- ・特別な機会がないと干潟に入らない状況。徐々に有明海、干潟への関心が薄れてきた。
⇒2015年に肥前鹿島干潟がラムサール条約登録地となり、少しずつ市民の関心が戻りつつあるが・・・。
- ・カモによる海苔の食害・羽根混入被害
⇒漁協者との対立

③ 「環境と産業の調和」から「有明海の再生」を目指して

「肥前鹿島干潟の循環のしくみ」



④ 金融機関との連携・肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー制度

肥前鹿島干潟 SDGs 推進パートナー制度



有明海の環境保全を通じてSDGsの推進に取り組む企業、団体等を募集しています

要件

- 肥前鹿島干潟を中心とした有明海の環境保全活動につながる取り組みをしていること
- 地域課題の解決に向けた取組などSDGsのさらなる推進に取り組む意欲があること
- 目指しているSDGsのゴールが明確であること

登録すると

- 「肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー登録証」を交付します
- 鹿島市ホームページや市報などで取組内容を紹介します
- SDGsの推進に関する各種情報を提供します

鹿島市役所 ラムサール条約推進室

お問い合わせ / ☎ 0954-63-3416

✉ ramsar@city.saga-kashima.lg.jp

